



金沢大病院で

治療へ来日

難病のコンボ男児

ユーゴスラビア・コンボ自治州に住み、難病に侵されたアルバニア人のネジール・シニックちゃん(三)が七日、日本で治療を受ける

ユーゴスラビア・コンボ自治州から難病の治療の

ために両親とともに全日空機で成田空港に來日。羽田経田で金沢市の金沢大病院へ向かった。ネジールちゃんはコンボ紛争による北大西洋条約機構(NATO)軍空爆前に悪性腫瘍(しゅよう)の「網膜芽細胞腫(もろまくがさいぼつしゅ)」と診断され、三月三日にベオグラードで右目の摘出手術を受けたが空爆の激化で

ていたAMD A(岡山市)の要請を受け、金沢大病院が受け入れを決めていた。両親に手を引かれ成田空港の到着ロビーに現れたネジールちゃんは、やや疲れた表情で時折泣き顔を見せたが、新幹線のおもちゃを渡されると右手でしっかりと握って満足そうな表情に。その後の記者会見では、母親のヒュルメーテ・シニックさん(四)が「日本の方々に心から感謝しています。息子がよくなったらコンボに戻り、家族で力を合わせて平和に暮らしたい」と話した。